

Journal of High Performance Sport 投稿要項

平成28年3月22日作成

令和5年5月1日改定

1. ジャーナルの趣旨

Journal of High Performance Sport (以下、JHPS) は、ハイパフォーマンススポーツ分野（世界一を競うレベルのアスリートが発揮する卓越したパフォーマンスに関する分野）における競技力向上への医・科学的貢献を目指す学術雑誌です。その内容には、将来活用が見込まれる基礎的な研究から、ハイパフォーマンススポーツ分野での実践に直結する応用的な研究までが含まれます。特に、卓越したパフォーマンスを発揮するアスリートの競技パフォーマンスに関する研究や、彼らに対する医・科学サポート事例・症例を扱うのがこの雑誌の大きな特徴です。ハイパフォーマンススポーツ分野において、競技力向上に努める選手・コーチ、競技団体スタッフおよびハイパフォーマンススポーツ研究に携わる研究者の方々の本誌への投稿を広く歓迎します。

2. 投稿内容

1) 投稿論文の内容は、他誌に未発表のもので、いずれの論文種別においても、ハイパフォーマンススポーツ分野の発展に寄与するものとします。

2) 本誌に掲載される論文の種類は、総説、原著論文、報告・資料のいずれかで、それぞれの特徴は以下の通りです。なお、原稿は和文もしくは英文とします。

論文の容量は、図表を含め原則刷り上がり10ページ以内（1ページ1,760字相当）としますが、論文の特性上それ以上の分量が妥当とみなせる場合はこの限りではありません。

A) 総説

特定の研究テーマに関する知見（先行研究）を理論立てて総括したものを指します。

B) 原著論文

JHPSにおける原著論文とは、著者自身が目的に応じて分析し、今後のハイパフォーマンススポーツの研究や実践に活かし得る、新たな知見や問題を創出した研究論文のことを指します。本要項の末尾に記載した、**<原著論文の定義に関する補足説明>**も併せてご参照ください。

JHPSにおける原著論文は、基礎から実践まで、その研究内容が多岐にわたるハイパフォーマンススポーツ分野の特色を鑑みて、以下3つの分類を設けています。

- ・基礎研究：従来の理論的知識から課題を抽出して実験、観察等によって検証する研究
- ・実践研究：実際の競技現場から得られたデータ（事例・症例）を手掛かりとして体系的知識の理解を深めようとする研究で、且つ仮に他の研究者等が同様の条件下で適切な方法で実施した際にも、同様の知見が導けると十分判断できる信頼性を有する研究

・調査研究：既存の資料や、質問紙/聞き取り調査等から得られたデータを用いて仮説を検証し、新たな体系的知見を創出する研究

C) 報告・資料

競技現場で実際に行った活動事例を正確に記述した報告、トップアスリートに関する症例報告、並びに当該分野において記録にとどめておくべき客観的な資料を指します。競技現場やアスリートからの要望に基づいて実施することが多いという当該分野の活動の特性から、競技場面や臨床場面における計画的なデータ収集は必ずしも要求しませんが、実施した方法を詳細に開示する必要があります。

報告・資料いずれにおいても、単なる活動報告や、資料の掲示にとどめるのではなく、ハイパフォーマンススポーツの実践や研究に参考となる考察が必要です。得られた事実と主張を明確に区別して記載し（例：考察を前・後半に分け、前半を結果の解釈、後半を実践的な考察・著者の意見とする）、少なくとも著者が前提とする論理にもとづけば飛躍が無く、一貫性がある考察をこころがけてください。

3. 執筆に際する注意

1) 倫理的配慮について

本要項の末尾に記載した、**＜ハイパフォーマンススポーツ分野における倫理的配慮について＞**に基づいて、所属機関・組織での倫理審査を受けた旨、もしくは研究・活動を実施する際になされた倫理的配慮について明記してください。倫理的配慮について、掲載に関する一切の責任は著者自身が負うこととなります。

2) 利益相反について

共著者をふくめたすべての著者は、投稿内容に関して、論文の所定の箇所（参考文献の前）に利益相反に関する記述をしてください。利益相反がない場合には、「本論文に関連し、開示すべき利益相反関連事項はない」の文言を記載してください。開示すべき利益相反（研究によってバイアスをもたらす可能性のあるすべての利害関係）に関する情報がある場合には、その内容（企業名や出資の有無など）についても記載してください。

4. 原稿送付

原稿及び「投稿受付票」は、下記担当にメールで送付してください。原稿については、下記の2通りの原稿をご提出ください。

・執筆要項「原稿の形式」における全てをまとめた PDF ファイル

・「原稿の形式」における A~C のみをまとめた PDF ファイル

原稿形式については＜執筆要綱＞をご参照ください。

※原稿送付およびお問い合わせ先

5. 採否

複数の査読者の意見を参考にして、編集委員会において原稿の採否を決定し、掲載は原則として採択順とします。なお、採択の要件は以下の通りです。

1) すべての原稿に共通の要件

- ・得られた知見がハイパフォーマンススポーツ分野の発展に寄与することが見込まれる
- ・文章および図表が整然としており、ケアレスミスがない
- ・論の展開に矛盾がない

2) 総説で満たすべき要件

- ・総説としての新規性がある。
- ・特定の研究テーマに関する知見が（ナラティブレビューの場合も）理論立てて説明されている

3) 原著論文で満たすべき要件

- ・新たな知見や問題を創出している
- ・目的に合った分析・検討を行っている
- ・仮に他の研究者等が同様の条件下で適切な方法で実施した際にも、同様の知見が導けると十分判断できるだけの信頼性を有する

4) 報告・資料で満たすべき要件

- ・得られた事実と主張が明確に区別され、正確に記述されている

また、原著論文（実践研究・資料研究）については、担当編集委員で原著論文としての掲載は難しいと判断し、不採択とすることがあります。その際、原著論文として受理した投稿論文を、報告・資料として査読を行うことも可能です。査読希望の有無については、受付票に記載してください。

6. 再投稿

判定が「B：要修正」だった場合には、8 週間以内に回答文書（書式自由）を添えて再提出してください。ただし、「C：掲載不可」と判定した査読者の指摘に対する回答および修正は必要ありません。期限を越えて再提出された場合には新たに投稿された論文として受け付けます。

7. 校正

英文校正は必要に応じて投稿前に著者の負担で行ってください。また採択後の校正は、編集事務局より指定された期日内で著者に行っていただきます。

8. 掲載

- ・他者の著作権に帰属する資料を引用する時は、著者がその掲載許可申請手続きを行ってください。
- ・掲載論文の著作権は国立スポーツ科学センターに帰属します。
- ・掲載料は国立スポーツ科学センターが負担します。
- ・別刷料は著者負担とします。
- ・掲載を許可された原稿については、査読終了後インターネット上（国立スポーツ科学センターホームページ上および電子ジャーナル配信サイト J-STAGE）にて公開し、適宜冊子体の発行を行います。

<原著論文の定義に関する補足説明>

・国内のスポーツ医・科学関連の学術誌では「原著論文」を「実践研究」「事例報告」「症例報告」などと対比させ、対象群を設定した実験や統計処理に基づいて仮説を検証するような研究を指すことが多いですが、本誌では「原著論文」(original research article)は「レビュー」(review article)との対比から、本来の意味に準じて、著者自身が行った計測や分析に基づいて新たな知見や問題を発見するものと考えます。

・自ら計測を行っていなくとも、既存の資料・情報を基に分析し、新たな知見・問題を創出する研究（例：ハイパフォーマンススポーツの社会的意義を検討する研究）であれば原著論文（調査研究）となり得ます。ただし、特定の研究テーマに関する知見（先行研究）を体系立てて総括した論文は総説に該当します。

・JHPS では、例えばトップアスリート 1 名の卓越した競技パフォーマンスについて掘り下げた分析によって得られた研究成果もハイパフォーマンススポーツ分野の発展に大きく寄与すると考えられるため、そのような研究も原著論文（実践研究）として扱います。その場合、対象者と同様の知見が他のアスリートにも適用できることが保障されている必要はありません。仮にそのアスリートが全く同じ状況（実際にはありえないが）において再度計測した場合に、同様の結果が導かれると十分判断できるだけの信頼性を有していることが重要です。反対に、恣意的で再現不可能な条件下で得られた計測データに基づく報告は原著論文として認められません。しかしながら、原著論文（実践研究）として認められない報告についても、ハイパフォーマンススポーツ分野に関わる者にとって有益な活動報告である場合は、「報告・資料」として認められることがあります。

<ハイパフォーマンススポーツ分野における倫理的配慮について>

近年、ハイパフォーマンススポーツ分野における知見は、より個別性や独自性を有するものとなっています。このような知見は、より高い競技力だけでなく、広く国民のスポーツ実践や健康づくりにも応用できる可能性を有していることから学術的に蓄積されていく必要があると考えられます。またそのような研究・活動を実施する際には、法に基づいてアス

リートや被験者の人権を尊重し、安全の確保が最優先に行うべきであり、どのような場面においても倫理的な配慮がなされるべきです。

Journal of High Performance Sport 編集委員会は、このことを適切に認識し、ハイパフォーマンススポーツの競技現場においても、その研究の場においても、同様の倫理的配慮が充分になされていること求めます。

附則

1. この要項は、2023 年 5 月 1 日から施行する。

Journal of High Performance Sport 執筆要項

平成28年3月22日作成

令和5年5月1日改定

1. 投稿受付票

「JHPS 投稿受付票」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。

2. 言語・用紙

言語は、日本語または英語に限ります。英文での投稿であっても査読や事務局手続きは日本語を用います。なお、英文での投稿において、本文が日本語の場合の英文要旨を含め、筆頭著者の第一言語が英語でない場合にはネイティブチェックを受けるようにしてください（校正証明書の提出は不要）。原稿を作成する用紙は A4 版縦とし、全角 40 字 30 行（英文綴りおよび数値は半角）で上下左右 3 cm の余白を設けてください。

本文および文献表には、ページ下部中央にページ番号を、左側に行番号を付加してください。

3. 書式

和文、英文ともに、10.5 ポイントの活字で印字してください。和文の場合、句点（。）、読点（、）を使用してください。英文綴りおよび数値は半角の字体で記してください。

4. 文体

和文の場合、新仮名遣い、横書き、常体（だ・である調）を基本とし、当用漢字を用いてください。

外国人名は原語とし、外来語の一般化しているものはカタカナとします。

5. 項目分け

大項目より小項目への順序は次のとおりとします。

I., II., …… , 1., 2., …… , 1), 2), …… , a), b), ……

6. 単位及び単位記号

原則として国際単位制度（SI）に従いますが、当該領域で慣用されているものはこの限りではありません。

7. 原稿の形式

原稿及び「投稿受付票」は、執筆要項 4. 原稿送付に記載された担当宛にメールで送付してください。原稿については、

- ・執筆要項「原稿の形式」における全てをまとめた PDF ファイル
- ・「原稿の形式」における A~C のみをまとめた PDF ファイル

の 2 通りの原稿をご提出ください。執筆要項「原稿の形式」における全てをまとめた PDF ファイルは、受付表に記載した項目を参考に、著者が特定される可能性のある情報（研究機関名等）を伏せ字（黒塗りまたは記号での代替）にしてください。採択後、校正時に付記したものを提出いただきます。

A) 表紙

ア) 表題 [英文タイトル (本文が英文の場合は和文タイトル) も付けてください]

イ) ランニングタイトル (本文が和文の場合は和文で 40 字以内、英文の場合は英文でスペース含め 80 字以内とします。表題がこの字数に収まっている場合には表題と同じにしてください)

ウ) 本文の言語

エ) 原稿の種類

B) 英文要旨 (Abstract) : 研究目的、方法、結果、結論などを含めて 300 語以内で記載してください。

C) キーワード (英文要旨に続けて) : 5 つ以内の英文キーワード (固有名詞等を除き頭文字も小文字で) とそれに対応する和文キーワードを記載してください。

D) 本文 : 和文または英文で記載してください。

E) 図表 : 題目および図表内の文字は原則英語とし、題目は図表近くに記載してください。挿入場所を本文欄外に赤字で指定するか、挿入場所に図表を直接挿入してください。原則白黒としますが、必要に応じてカラーも可とします。

F) 文献 : 文献を引用する際には、本文中に番号 (例 : ^{1) 3) 10)}) を付して、文献欄には引用した文献の情報を記載してください。また、複数の文献を引用する場合は、本文中にすべての引用文献番号を記載してください (例 : ^{1) 2) 3) 4) 5)})。詳しい文献引用方法については、～文献記載方法～を参考に、表記法に則って記載してください。

～文献記載方法～

- 文献表の番号は 1) …を用いる。
- 文献表は著者名に基づいてアルファベット順に番号をつける。その番号を本文中の記した引用箇所の番号と照合すること。
- 筆頭著者が同一の場合は第2著者名に基づいてアルファベット順に番号をつける。第2著者も同一の場合はそれ以降の著者に基づきアルファベット順に並べる。
- 同一著者の文献が複数ある場合は、発行年の最新の文献から順に記載する。
- ジャーナルタイトルは、国内誌は省略せずに記載し、欧文誌は省略して記載する。欧文誌の略称はWeb of ScienceやPubMedにならい、単語頭文字のみ大文字で記載する。

参考) https://images.webofknowledge.com/images/help/WOS/A_abrvjt.html

例) Journal of biomechanics → J Biomech

- 著者や発行所の法人組織等の語句 (例 : 株式会社、公益財団法人) は記載しない。
- 著者と発行所が同一の場合 (例 : 団体が著者であり発行所の場合) も発行所名は記載する。
- 記載項目が無い場合 (例 : 巻号のうち号が無い雑誌) はその項目は飛ばして記載す

る。

～文献記載例～

表記方法は下記に従う。

- ・区切り記号及びスペースは半角とする。

■半角スペース

1) 雑誌論文

※雑誌論文においては著者は全員記載して、「, (コンマ スペース)」で区切る。

1-1) 公開済論文

著者名. ■論文名. ■雑誌名, ■巻(号): ■初頁-終頁, ■発行年.

※オンライン版で頁数が無くてDOIがある場合は、頁数の部分にDOIを記載する。

[例]

- ・ 中村真理子, 中村大輔, 大岩奈青, 早川直樹. エリートサッカー選手における唾液中コルチゾールを用いたコンディション評価の可能性. *Journal of High Performance Sport*, 4: 71-78, 2019.
- ・ Vickery WM, Dascombe BJ, Baker JD, Higham DG, Spratford WA, Duffield R. Accuracy and reliability of GPS devices for measurement of sports-specific movement patterns related to cricket, tennis, and field-based team sports. *J Strength Cond Res*, 28(6): 1697-1705, 2014.
- ・ 湯田淳, 結城匡啓, 藤井範久, 阿江通良. スピードスケート5,000m競技における世界一流長距離選手のレースペースの分析. *バイオメカニクス研究*, 6(2): 116-124, 2002.

1-2) プレプリント論文

著者名. ■論文名. ■プレプリントサーバー名 + preprint, ■DOIのURL, ■発行年.

[例]

- ・ Schuch FB, Bulzing RA, Meyer J, López-Sánchez GF, Grabovac I, Willeit P, Caperchione CM, Sadarangani KP, Werneck AO, Ward PB, Tully M, Smith L. Moderate to vigorous physical activity and sedentary behavior change in self-isolating adults during the COVID-19 pandemic in Brazil: A cross-sectional survey exploring correlates. medRxiv preprint, <https://doi.org/10.1101/2020.07.15.20154559>, 2020.

2) 書籍

2-1) 書籍全体を参照した場合

著者または編集（監修）者名. ■書名. ■版数（初版・第1版は記載不要）, ■発行所名, ■発行年.

[例]

- Broad E. Sports nutrition for Paralympic athletes. CRC Press, 2013.
- Nigg BM, Herzog W. Biomechanics of the musculo-skeletal system. 3rd Edition, John Wiley & Sons, 2007.
- 阿江通良, 藤井範久. スポーツバイオメカニクス 20講. 朝倉書店, 1983.
- コーチング研究会編. ジュニア・アスリートのための体力トレーニング法. 第2版, 神田書房, 2001.

2-2) 特定のページあるいは特定の1章・1論文を利用した場合

著者名. 章の題名. 編集（監修）者名（3名以上の場合は・・・ら）編, 書名. 版数（初版・第1版は記載不要）, 発行所名, pp.初頁-終頁, 発行年.

（英文の場合は章の題名の後に“In: 編集（監修）者名, (Ed.)または(Eds.)”をつける）

[例]

- Truman H. Fund raise for professional sport. In: Roosevelt T et al. (Eds.) Foundations of Sport Management. Sports and Leisure Published, pp.259-282, 1988.
- 山崎喜比古. ストレス対処能力SOCとは. 山崎喜比古ら編, ストレス対処能力SOC. 有信堂高文社, pp.3-24, 2008.

2-3) 翻訳書の場合

原著者名（姓のカタカナ表記）: 訳者名（3名以上の場合は・・・ら）訳. 書名. 版数（初版・第1版は記載不要）, 発行所名, pp.初頁-終頁, 発行年.

[例]

- グリーン, パティ: 山西哲郎ら訳. 中・高校生の中長距離走トレーニング. 大修館書店, pp.101-117, 1999.

3) WEB サイト

著者名. WEBページの題目. URL (参照年月日)

[例]

- 厚生労働省. 日本人の食事摂取基準（2015年版）.
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/eiyou/syokuji_kijyun.html (2015年4月1日)

4) 政府刊行物

著者名. 刊行物名. 特定の参照ページがあればpp.初頁-終頁. WEBページがあれば当該ページURL (参照年月日)

[例]

- 文部科学省. 第2期スポーツ基本計画（平成29年3月）. pp.14-15.
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop01/list/1372413.htm (2021年10月1日)
- 文部科学省. 令和2年度文部科学白書. p.14.
https://www.mext.go.jp/content/20210810-mxt_soseisk01-000016965_0-1.pdf (2021年10月1日)

附則

1. この要項は、2023年5月1日から施行する。